IFRS S1号及びIFRS S2号
現在の及び予想される財務的影響

パート1／全2回

ISSBテクニカルスタッフ ガブリエル・ベネディクト
ISSB副議長 スー・ロイド

このプレゼンテーションで示される見解は発表者のものであり、必ずしもIFRS財団、国際会計基準審議会（IASB）又は国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の見解ではありません。
Copyright © 2024 IFRS Foundation. All rights reserved.

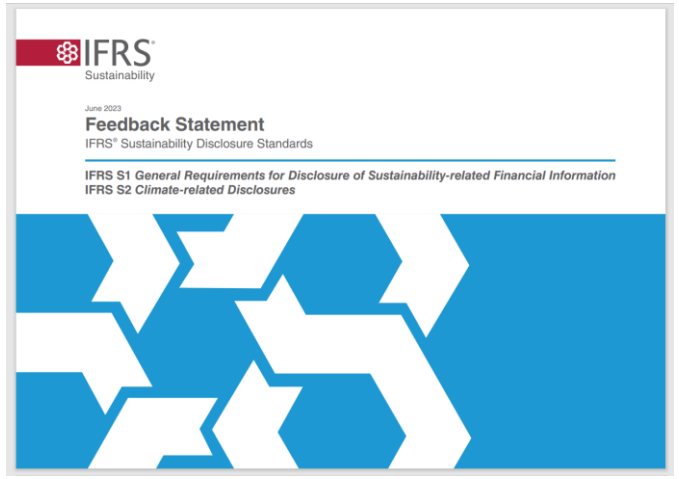
始める前に…

- 本ウェブキャストは、IFRS S1号及びIFRS S2号（以下「ISSB基準」という。）の「戦略」の内容の一部を対象としている。したがって、ISSB基準の全文とあわせて考慮されるべきである
- ISSB基準及び関連資料は、当財団のウェブサイト（www.ifrs.org）に掲載されている
- 示されている見解は発表者のものであり、必ずしもISSB又はIFRS財団の見解ではない

背景 1/2

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

これらの要求事項は、TCFDの「戦略」の開示提言を基礎としている。これらの要求事項は、財務諸表において、サステナビリティ関連のリスク又は機会により最も影響を受けた(affected)可能性がある領域（又は影響を受ける(affected)可能性がある領域）を強調しているため、有用である

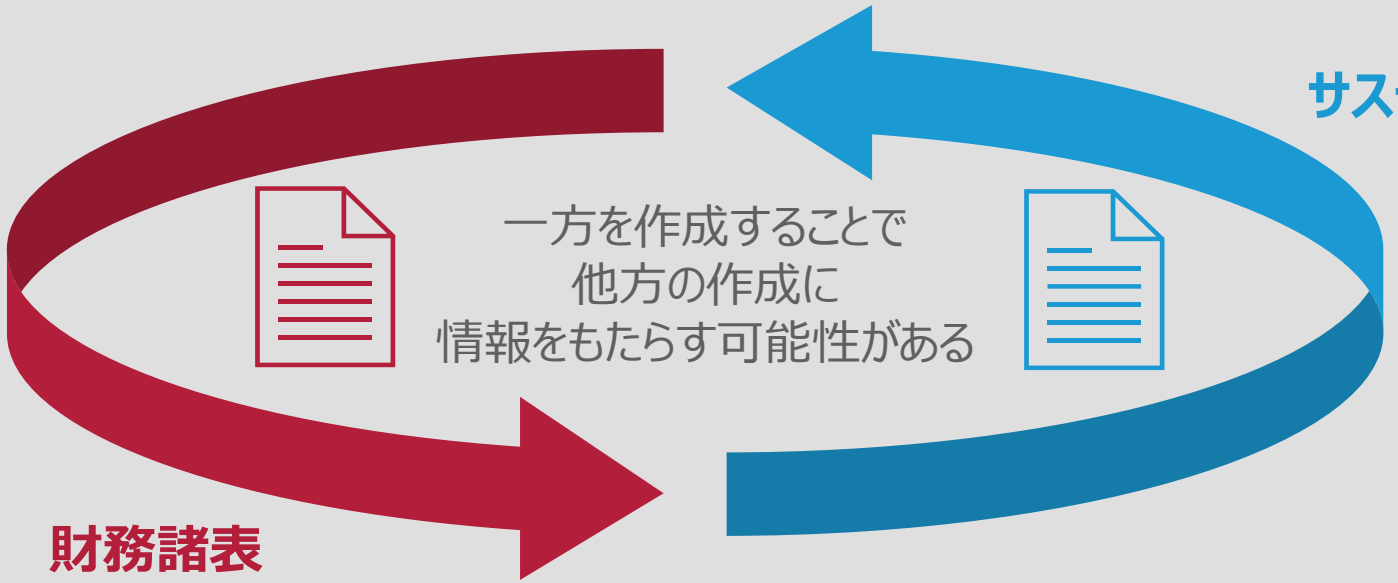


IFRS S1号及びIFRS S2号の公開草案が公表された。利害関係者からは、一般目的財務報告書の主要な利用者にとってどのような情報が有用であるかについてのフィードバックが寄せられた

適用を促進するためのメカニズムと、プロポーショナリティに対処するためのメカニズムを有する最終基準が公表された

背景 2/2

一般目的財務報告書（レポーティング・パッケージ）



サステナビリティ関連財務開示

現在の及び
予想される(anticipated)
財務的影響(effects)

+ 補完及び拡充(expand)
+ つながりを識別し、説明する

セッションの概要 – 現在の及び予想される(anticipated) 財務的影響(effects)

パート1

- 全般的な(overarching)要求事項
- 当報告期間
- 翌年次報告期間

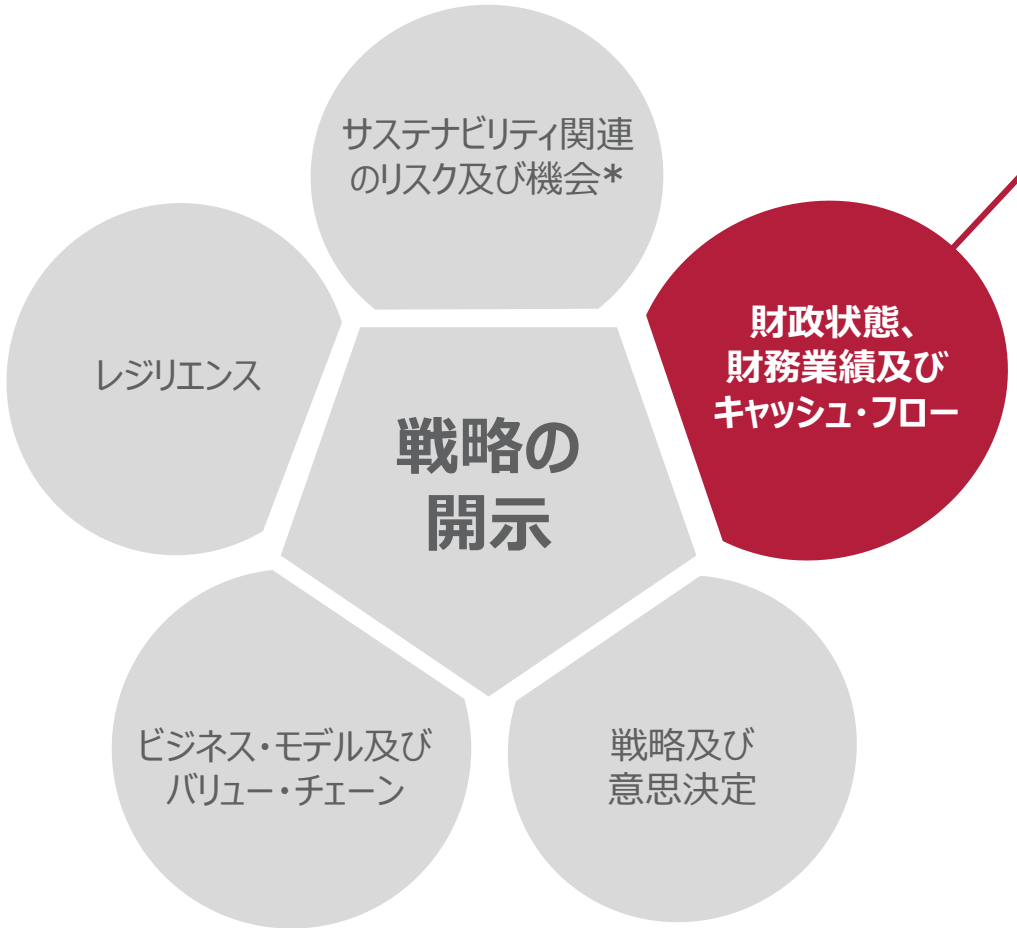
パート2

- 短期、中期及び長期にわたって
- 適用を促進するためのメカニズムと、プロポーショナリティに対処するためのメカニズム

学習目標

現在の及び予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する要求事項、並びに、サステナビリティ関連のリスク及び機会を管理するための企業の戦略に関する有用な情報を提供する方法を理解する

「戦略」における現在の及び予想される(anticipated) 財務的影響(effects)



次に関する情報：

- サステナビリティ関連のリスク及び機会の影響(effects)
  - 企業の財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローに与えた
  - 当報告期間における　（**現在の財務的影響**(effects)）

- サステナビリティ関連のリスク及び機会の予想される(anticipated)影響(effects)
  - 企業の財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローに与えた
  - 短期、中期及び長期にわたって
  - サステナビリティ関連のリスク及び機会が、企業の財務計画にどのように含まれているかを考慮したうえで

（**予想される**(anticipated) **財務的影響**(effects)）

*注：サステナビリティ関連のリスク及び機会には、気候関連のリスク及び機会が含まれる

全般的な(overarching) 要求事項

財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローに関する現在の及び予想される(anticipated) 影響(effects)

IFRS S1.34
IFRS S2.15

定性的情報 **及び** **定量的情報**

IFRS S1.35
IFRS S2.16

単一の金額 **又は** 金額の範囲

IFRS S1.36
IFRS S2.17

次の場合、企業は定量的情報を提供する必要はない

- 理由を説明する
- 定性的情報を提供する（影響を与える(affected) 可能性が高いか、影響を与えた(affected) 行項目、合計及び小計を識別する）
- 複合的な影響(effects)に関する定量的情報を提供する

IFRS S1.40
IFRS S2.21

財務諸表と現在の財務的影響(effects)の開示との間の相互作用

財務諸表

サステナビリティ関連財務開示

定量的影響(effect)	影響(effect)に関する情報	現在の財務的影響(effect)
サステナビリティ関連のリスク又は機会は、財政状態、財務業績又はキャッシュ・フローに影響を与えたか(affected)	その影響(effect)に関するどのような情報が 、 財務諸表において提供されているのか	サステナビリティ関連のリスク及び機会が、財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローにどのように影響を与えたか(affected)に関する定量的及び定性的情報

全般的な(overarching)な要求事項 –
次のような、つながりのある情報を促進するためのツール

一般目的財務報告書（レポーティング・パッケージ）

サステナビリティ関連財務開示

報告主体

報告期間

報告のタイミング

表示通貨

同じであることが必要

財務諸表

報告主体

報告期間

報告のタイミング

表示通貨

データ

仮定

可能な限り一貫性を保つ

データ

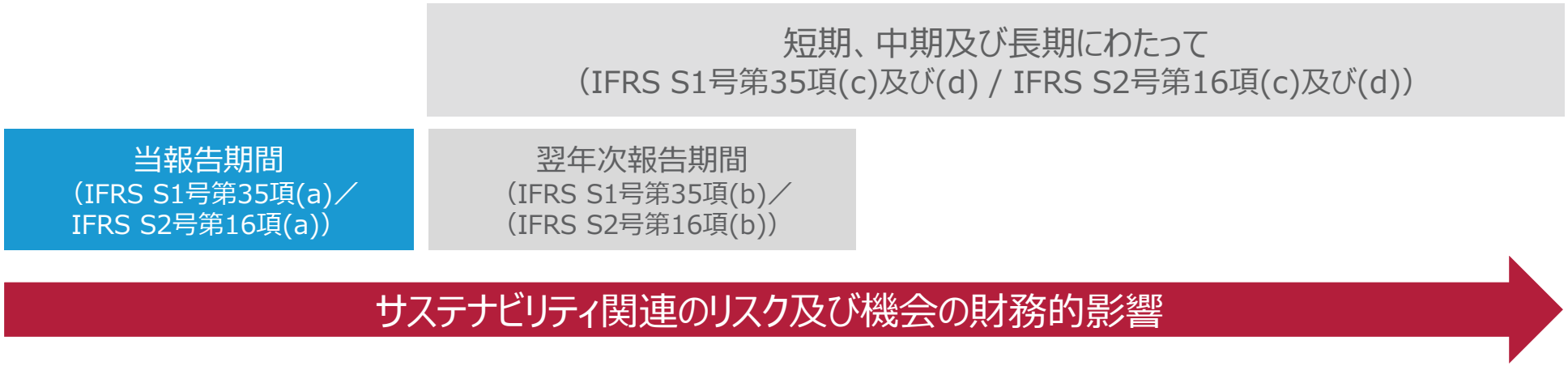
仮定

現在の財務的影響(effects)

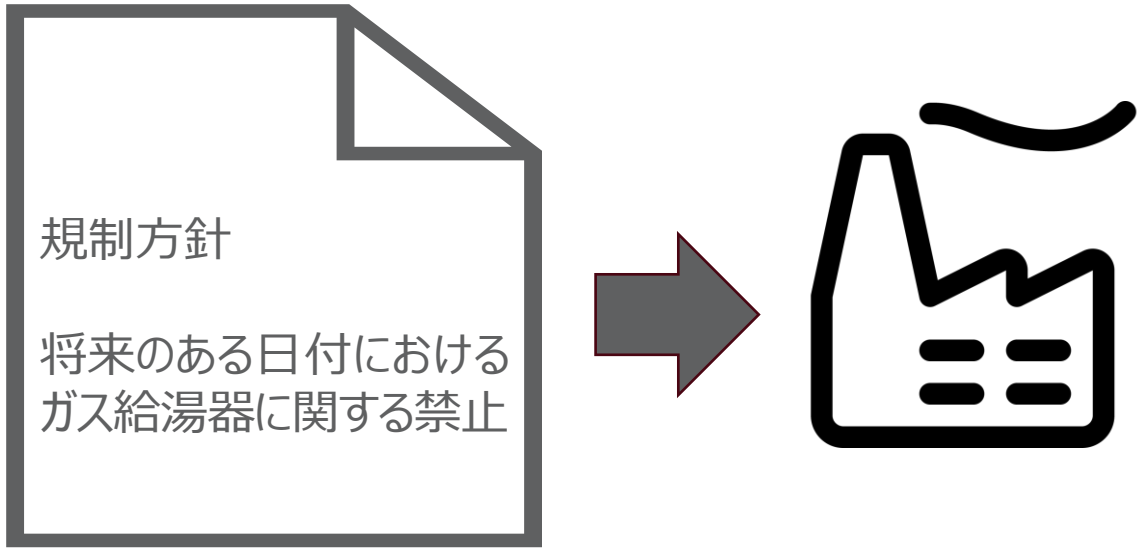
IFRS S1.35(a)
IFRS S2.16(a)

次に関する定量的及び定性的情報

- サステナビリティ関連のリスク及び機会が、報告期間における財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローに与える影響(effects)



例1：IFRS S1号第35項(a) 及び IFRS S2号第16項(a)の要求事項



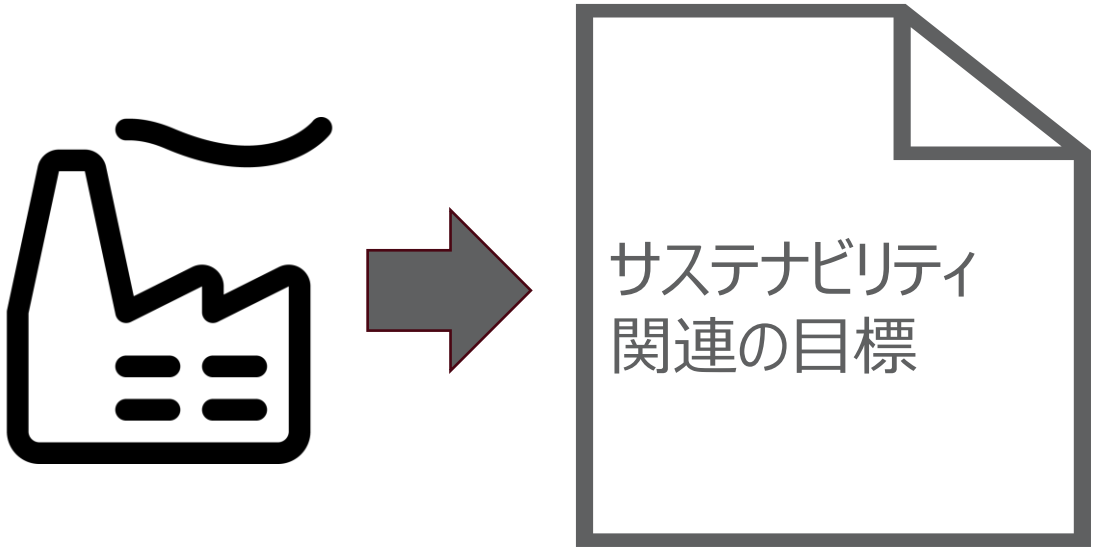
<u>財務的影響(effects)</u>

- 減損損失

<u>サステナビリティ関連財務開示</u>

- サステナビリティ関連のリスクと、減損損失をつなぐ(connecting)定性的及び定量的情報

例2：IFRS S1号第35項(a) 及び IFRS S2号第16項(a)の要求事項



財務的影響(effects)

- 認識規準は満たしていない

サステナビリティ関連財務開示

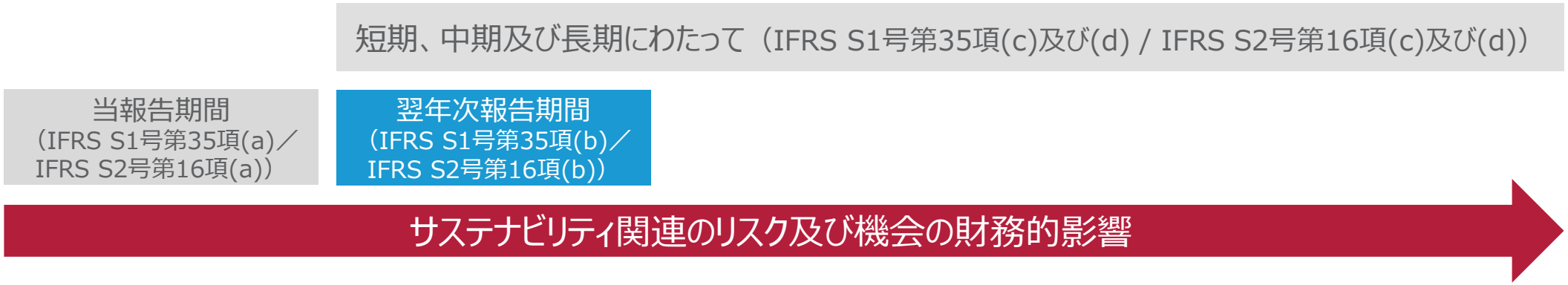
- サステナビリティ関連のリスクが、財政状態、財務業績又はキャッシュ・フローに影響を与えていない(affected)ことを説明する、当該サステナビリティ関連のリスクに関する情報

翌年次報告期間中に、重要性がある(material)修正が生じる重大な(significant)リスク

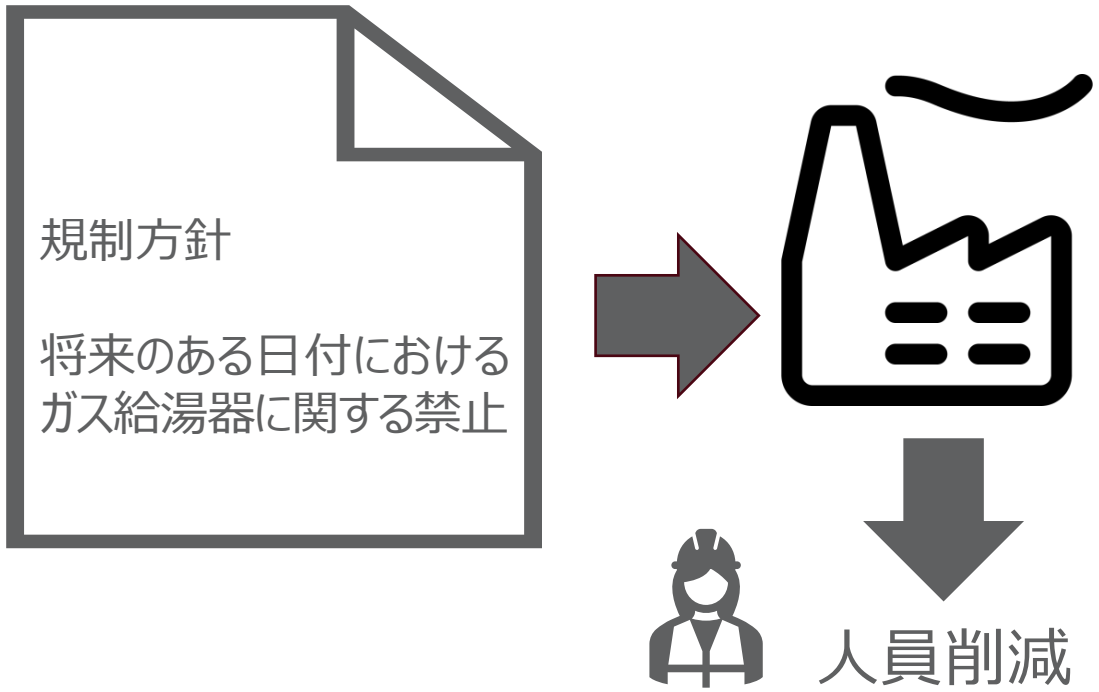
IFRS S1.35(b)
IFRS S2.16(b)

次に関する定量的及び定性的情報：

- 翌年次報告期間中に、関連する財務諸表において報告される資産及び負債の帳簿価額に、重要性がある(material)修正が生じる重大な(significant)リスクがある、リスク及び機会
  - IFRS会計基準の要求事項と類似



例3：IFRS S1号第35項(b) 及び IFRS S2号第16項(b)の要求事項



<u>財務的影響(effects)</u>

- リストラクチャリング引当金及び対応する費用の当年度見積額

<u>サステナビリティ関連財務開示</u>

- サステナビリティ関連のリスクと、引当金の帳簿価額を翌年次報告期間において修正するリスクをつなぐ(connecting)、定性的及び定量的情報

例4：IFRS S1号第35項(b) 及び IFRS S2号第16項(b)の要求事項

頻度及び深刻さ(severity)**は不確実**

森林火災のリスク

翌年次報告期間において、資産の帳簿価額に対して重要性がある(material)修正が生じる重大な(significant)リスク

<u>財務的影響(effects)</u>

- 減損分析において考慮した
- 減損損失は認識していない

<u>サステナビリティ関連財務開示</u>

- サステナビリティ関連のリスクと、資産の帳簿価額の翌年次報告期間における修正のリスクをつなぐ(connecting)、定性的及び定量的情報

セッションの概要 – 現在の及び予想される(anticipated) 財務的影響(effects)

パート1

- 全般的な(overarching)要求事項
- 当報告期間
- 翌年次報告期間

パート2

- 短期、中期及び長期にわたって
- 適用を促進するためのメカニズムと、プロポーショナリティに対処するためのメカニズム

学習目標

現在の及び予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する要求事項、並びに、サステナビリティ関連のリスク及び機会を管理するための企業の戦略に関する有用な情報を提供する方法を理解する

IFRS Sustainability

オンラインでのフォロー

ifrs.org

@IFRSFoundation

IFRS Foundation

International Sustainability Standards Board